



APEC JAPAN 2010
Ministerial Meeting on Food Security in Niigata

はじめに



■ごあいさつ



農林水産大臣 鹿野道彦

APEC食料安全保障担当大臣会合は、おかげをもちまして、2日間にわたり食料安全保障について実りある議論を行い、成功裏に終えることができました。2010年日本APEC新潟食料安全保障担当大臣会合開催推進協議会をはじめ、関係者の皆さま方におかれましては、準備段階から大臣会合当日の歓迎行事に至るまで、多大なご支援、ご協力を頂き心から感謝を申し上げます。

このAPECにおいて初めて食料安全保障を担当する閣僚などが一同に会し、食料安全保障問題について話し合い、食料の輸入国、輸出国が共に食料増産に努めることで合意できたことは画期的なこととあります。合意した「APEC食料安全保障に関する新潟宣言」では、「持続可能な農業の発展」と「投資、貿易及び市場機能の円滑化」という共通目標を目指し、協力していくことを誓いました。これらを踏まえて、11月のAPEC首脳会議における横浜ビジョンでは、人間の安全保障の確保の一環として食料安全保障に関する具体的取り組みの促進がうたわれたところです。

今後、エコノミーや国際機関が相互に、あるいは一緒になって世界の食料安全保障の強化に向けた協力を継続して着実に進めていくことができるものと確信しており、地球規模での食料安全保障を強固にしていく第一歩と位置付けられるものと考えます。生活の糧となり、また経済成長や地域の安定の基礎となる食料が世界中に行き渡り世界の人々が健康で幸せな生活を送れるように、また、世界の子どもたち、さらにその子どもたちが希望に満ちた未来を享受できるように、これからも各国と手を携えて尽力していく所存です。

最後になりましたが、このような成果は、2010年日本APEC新潟食料安全保障担当大臣会合開催推進協議会をはじめ、関係者、ボランティアの皆さま方の多方面に渡るサポートがなければ成し遂げられなかったものです。皆さまに改めて感謝を申し上げますとともに、新潟の今後ますますのご発展を祈念しております。

APEC JAPAN 2010
Ministerial Meeting on Food Security
in Niigata

■ごあいさつ



2010年日本APEC新潟食料安全保障担当大臣会合開催推進協議会 最高顧問
新潟県知事 泉田裕彦

2010年10月16日、17日の両日に、「2010年日本APEC新潟食料安全保障担当大臣会合」が朱鷺メッセを会場に開催されました。

世界的な食糧危機や日本の食料自給率向上が重要な課題となっているこの時期に、APECで初めての食料安全保障に関する会合が、日本の穀倉地帯、食料生産基地である本県で開催されたことは、大変名誉なことと感じております。

また、会合の最終日には、食料を安定的に供給するため、農業生産の増大や農産物貿易の円滑化などの目標を示した「新潟宣言」と、目標実現のための具体的な取り組みをまとめた「行動計画」が採択されました。APEC初の食料安全保障に関する会合で会議の成果として「新潟宣言」という名前でもとめられ、世界に発信されたことは、大変意義深く感じております。

世界21の国・地域の方々からは、新潟ならではの伝統文化や県産食材など工夫を凝らしたおもてなしに、大変好評をいただきました。短い期間ではありましたが、今回初めて新潟を訪れた方々にも新潟らしさを十分に感じていただけたものと思います。

この会合を通じて、「四季折々に彩られた豊かな自然」、「新鮮でおいしい食材をいかした食文化」など新潟の誇る魅力を世界にアピールできたのではないかと思います。

2008年のG8労働大臣会合、2009年の国連軍縮会議に引き続いての国際会議でしたが、この新潟という地域が世界に開かれていくことにより、多くの人に目的地として新潟を考えていただくきっかけになり、次につながっていくことを期待しております。

APEC食料安全保障担当大臣会合の開催で得られた経験・実績を糧として、今後の更なる国際コンベンションなどの誘致につなげ、新潟の拠点性を高めることにより、交流人口の拡大を図り、北東アジアのゲートウェイ、表玄関化に向けた取り組みを進め、地域経済の活性化につなげてまいりたいと考えております。

最後に、農林水産省をはじめ本協議会の構成団体、県民の皆さまから、ご理解・ご協力をいただきましたことに、あらためて心より感謝申し上げます。

■ごあいさつ



2010年日本APEC新潟食料安全保障担当大臣会合開催推進協議会 会長
新潟市長 篠田 昭

APEC(アジア太平洋経済協力)として初めての食料安全保障担当大臣会合が、2010年10月16日、17日の両日、本市の朱鷺メッセで開催され、成功裏に終了することができました。

会合では、食料安全保障についてAPECとして目指すべき共通目標として、「持続可能な農業の発展」と「投資、貿易及び市場機能の円滑化」を提唱した「APEC食料安全保障に関する新潟宣言」、共通目標の実現のための具体的な行動を定めた「行動計画」が採択されました。

世界の食料安全保障が岐路に立っている中で、いろいろな事情や条件の違いを乗り越えて「新潟宣言」という形で会合の成果が取りまとめられたことは、大きな意義があると考えております。

会合には、14人の閣僚を含むAPECエコノミー 21の代表、7つの国際機関をはじめ、合計300人以上の代表団が参加されました。

ボランティアなどの活躍もあり、代表団から「温かいおもてなしに感動した」、「米・酒など食べ物がおいしい」などの感想をいただきました。

G8労働大臣会合、国連軍縮会議、APEC食料安全保障担当大臣会合と三度の大型国際会議の成功により、国際コンベンションシティとしての本市の拠点性と新潟の食と農業の文化を世界に発信できたと思っております。

また、会合の準備期間中には、市民の皆さまへ開催周知ならびに機運の醸成を図るため様々な取り組みを行いました。これによりあらためて、食と農に関心を持っていただけたのではないかと考えております。

本誌は、APEC食料安全保障担当大臣会合において、本協議会が取り組んだ活動、会合の様子を取りまとめたものです。今後の国際会議の誘致や運営の一助になれば幸いです。

多大なるご支援・ご協力をいただきました農林水産省をはじめ、本協議会の構成団体など関係者、県民・市民の皆さまからいただきましたご理解とご協力に対し、心より感謝申し上げます。

コラム1 APECとは

《 APECとは 》

APEC (Asia-Pacific Economic Cooperation=アジア太平洋経済協力) は、アジア太平洋地域の21のエコノミーが参加する経済協力の枠組みです。経済規模で世界のおよそ半分のGDP、人口、貿易額を占める当該地域の持続可能な成長と繁栄に向けて、貿易・投資の自由化、ビジネスの円滑化、人間の安全保障、経済・技術協力などの活動を行っています。

世界の食料事情は逼迫し、食料の供給は安定性を失いつつあります。多くの途上国で飢餓や栄養不足の脅威が増す一方、一部先進国では必要以上の食料摂取による肥満の増加など、世界全体で見た食料生産と消費の偏りも大きな問題です。アジア太平洋地域においても食料の安全保障は重要な課題であることから、このたびAPECにおいて初めてとなる“食料安全保障担当大臣会合”が新潟で開催されることになりました。

《 エコノミー 》

アジア

日本
韓国
中国 (91年)
中国香港 (91年)
チャイニーズ・タイペイ (91年)
ロシア (98年)
フィリピン

インドネシア
マレーシア
タイ
シンガポール
ブルネイ
ベトナム (98年)

オセアニア

オーストラリア
ニュージーランド
パプアニューギニア (93年)

南北アメリカ

米国
カナダ
メキシコ (93年)
チリ (94年)
ペルー (98年)

〈カッコ内は参加年〉 ※1989年当初からの参加国については、() を省略

《 日本APEC開催地 》

